

**市民245名による深夜調査・東京ストリートカウントから
東京2020オリパラレガシー「ホームレスの人々を包摂する優しい都市」へ**

ARCH(アーチ)とは？

東京オリンピック・パラリンピックに向けて設立した市民団体ARCH

Advocacy and
Research
Centre for
Homelessness



…ホームレス問題についての**アドボカシー&研究チーム**
(政策提言)

メンバー：

- 東京工業大学 環境・社会理工学院土肥研究室の学生や教
(都市デザイン・コミュニティデザインを専門とする)
…過去のオリパラ開催都市のレガシーを見てきたメンバー
- プロボノボランティア (法律家、行政、民間企業、大学)
- 現場ワーカー (東京等で支援を行う計10団体のメンバー)

ウェブサイト：<http://archcd.wixsite.com/arch>

ARCHの目指す東京2020のVISION

ARCHが研究・アドボカシー活動を通して目指す都市の姿は

『ホームレス状態』が存在するときに、皆がそれを自分たちの問題だと考え、その状態をなくすために働きかけ続ける社会

路上で寝ている人がいても、素通りすることなく
皆がその人のことを気にかけて支え合おうとする

そこに暮らす色々な人びと皆にとって優しく、
多様性があり、また柔軟な強さを備えた社会

**オリンピック・パラリンピックを契機に、
2020東京をホームレスの人々を包摂する「優しい都市」に！**

市民245名による深夜調査 東京ストリートカウント

東京ストリートカウントとは？

終電後～始発までの深夜に行う、市民参加型の路上ホームレス人口調査

ストリートカウントを実施した理由

理由① 夜間の実態調査…東京都が行う昼間の調査ではとらえきれない、より正確な実態をつかむため、終電後の夜間に野宿している人数を調査するため

理由② 市民ボランティア参加…諸外国のストリートカウントに学び、多くの市民にまちの中にあるホームレス状態の現状を知ってもらうため

3～4人のグループで深夜のまちを隈なく歩いて調査



集合

- ・グループ編成
- ・全体ミーティング
- ・班内ミーティング

24:30
(0:30)

移動

- ・班毎に徒歩移動
- ・遠方は電車、車移動

25:00
(1:00)

カウント

- ・各班でカウント
(2～3時間)

25:30
(1:30)

集計

- ・班毎に集計
(30分～1時間)
- ・結果を本部へ

27:30
(3:30)

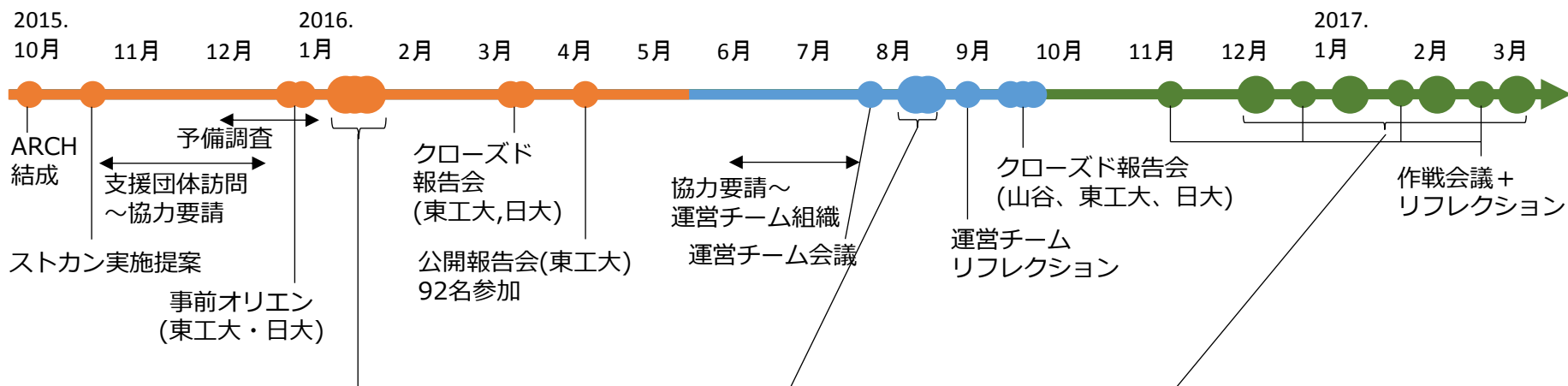
待機・解散

- ・希望者は待機場所にて休憩

28:30
(4:30)

東京ストリートカウントの実施プロセス

これまでの東京ストリートカウントー市民参加による新たなレガシー



	2016冬東京 ストリートカウント			2016夏東京 ストリートカウント		ストリートカウント ・シリーズ			
実施日程	2016年 1月12日	1月13日	1月14日	8月2日	8月3日	2017年 12月2日	1月12日	2月17日	3月9日
対象区	渋谷	新宿	豊島	台東 墨田	渋谷 新宿 豊島	千代田 中央(北側)	目黒 品川	豊島 文京	港 中央(南側)
班編成	徒歩7班 車2班	徒歩8班 車2班	徒歩7班 車2班	徒歩11班 車2班	徒歩24班 車1班	徒歩9班 車3班	徒歩7班 車2班	徒歩13班 車1班	徒歩8班 車2班
市民 参加人数	35名	41名	35名	65名	106名	52名	41名	57名	39名

計 245名
(のべ471名)

東京ストリートカウント2016-17の結果

東京中心部11区の、都調査-ストリートカウント 最新の結果を比較
 都による昼間調査の約2.5倍、1412名が路上ホームレス状態だとわかった



約2.5倍

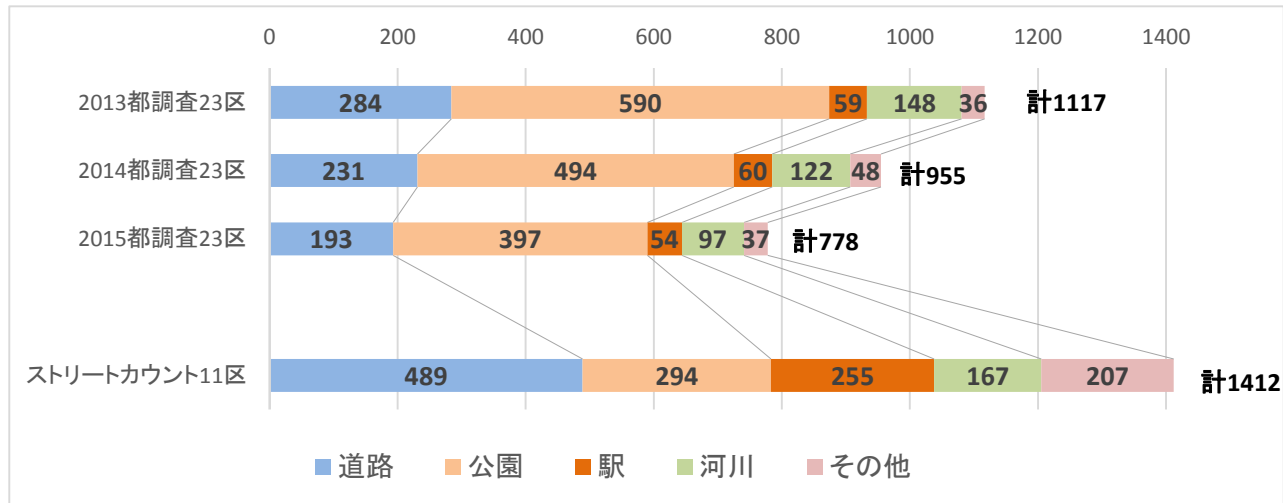


※最新(2016年8月)の該当11区の総計
 (但し国管理河川除く)

※2017年3月時点で対象とした各区に
 おける最新のストリートカウント結果の総計

東京ストリートカウントの結果（野宿場所の分類別）

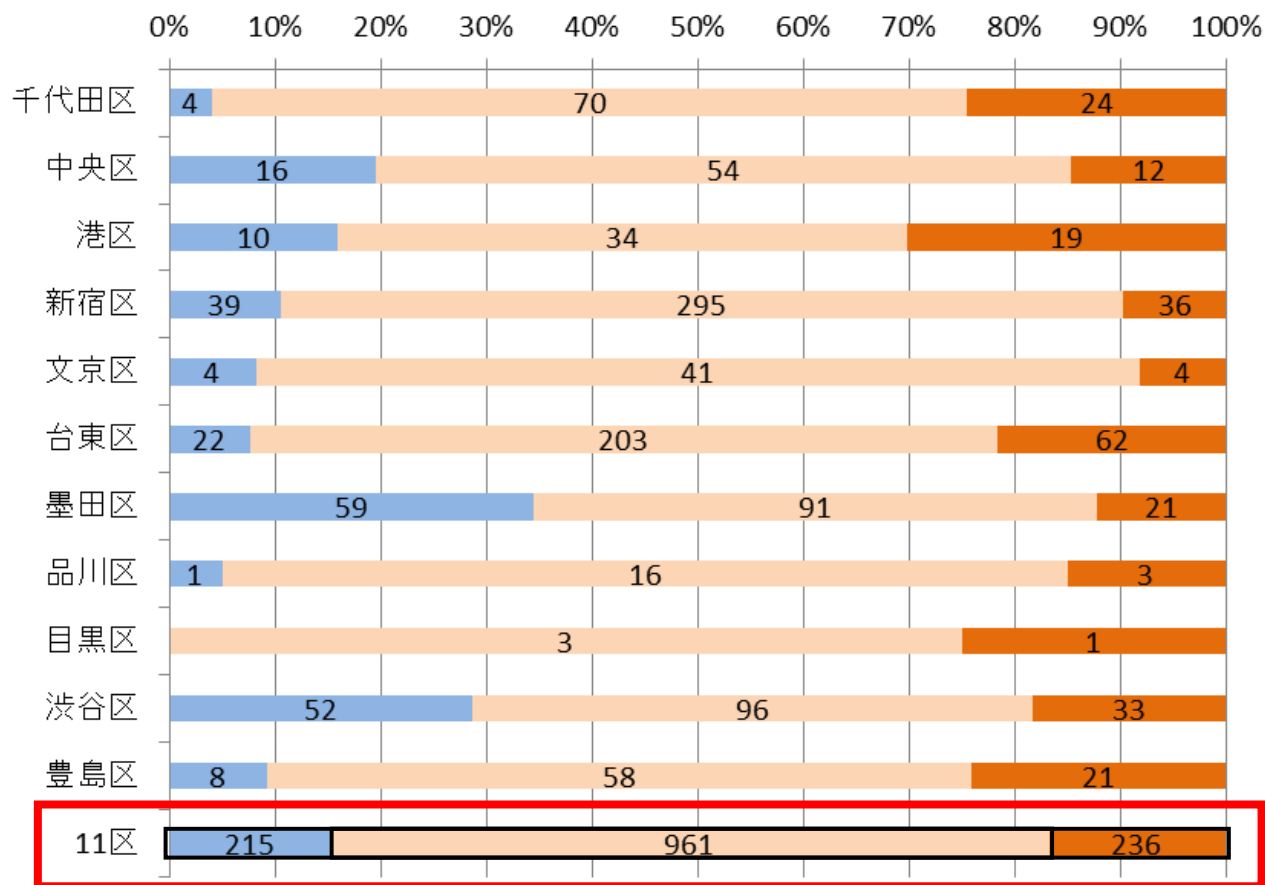
※都の概数調査（昼間調査、各年冬期）との比較



- 昼間の都調査と比べ、深夜のストリートカウントでは道路や駅の占める割合が高く、相対的に公園の占める割合が低い
⇒昼間には見られないが、深夜になると道路や駅で寝る人々が多くいると考えられる

(※厳密には、11区の場所別昼間調査値との比較が必要。また、東京都の公表の仕方が2016年より変更されたため、2015年までとの比較とした)

東京ストリートカウントの結果（野宿の状態別：各区）



■ 常設 ■ 仮設 ■ 寝ていない

常設：常設の小屋やテントなど 仮設：寝袋、ダンボールなど
寝ていない：座っている、立っている、歩いている

- 11区合計では「仮設」が68%、「寝ていない」が17%を占め、昼間調査ではとらえられていない人々が多く含まれると考えられる
- 11区すべてにおいて「仮設」の割合が最も高かった

東京ストリートカウント 参加者数(実数)

245

(のべ471名)



多くの市民が集まり、終電後のまちへ

東京ストリートカウントに集った市民

◆ どれだけの市民のエネルギーが投じられたのか？



◆ どんな人々が参加したのか？

245名の市民は…

28大学の学生・教員

中学生～60歳代

11の自治体関係職員

10のホームレス支援団体

ネット・メディアからも

約6割は学生

“日常的にホームレスの人に関わる活動や研究、
学習などを行っていますか？” はい:91 いいえ:143 (不明:11)

◆ 参加者の感想（一例）

幹線道路沿いの低層オフィスビルの軒下に就寝している方があり、「こんなところにも」という驚きがあった。（一般）

私たち活動している側が、実数を知り、広く市民に伝えていき、共に考えていけるようになくてはと思った。（支援団体）

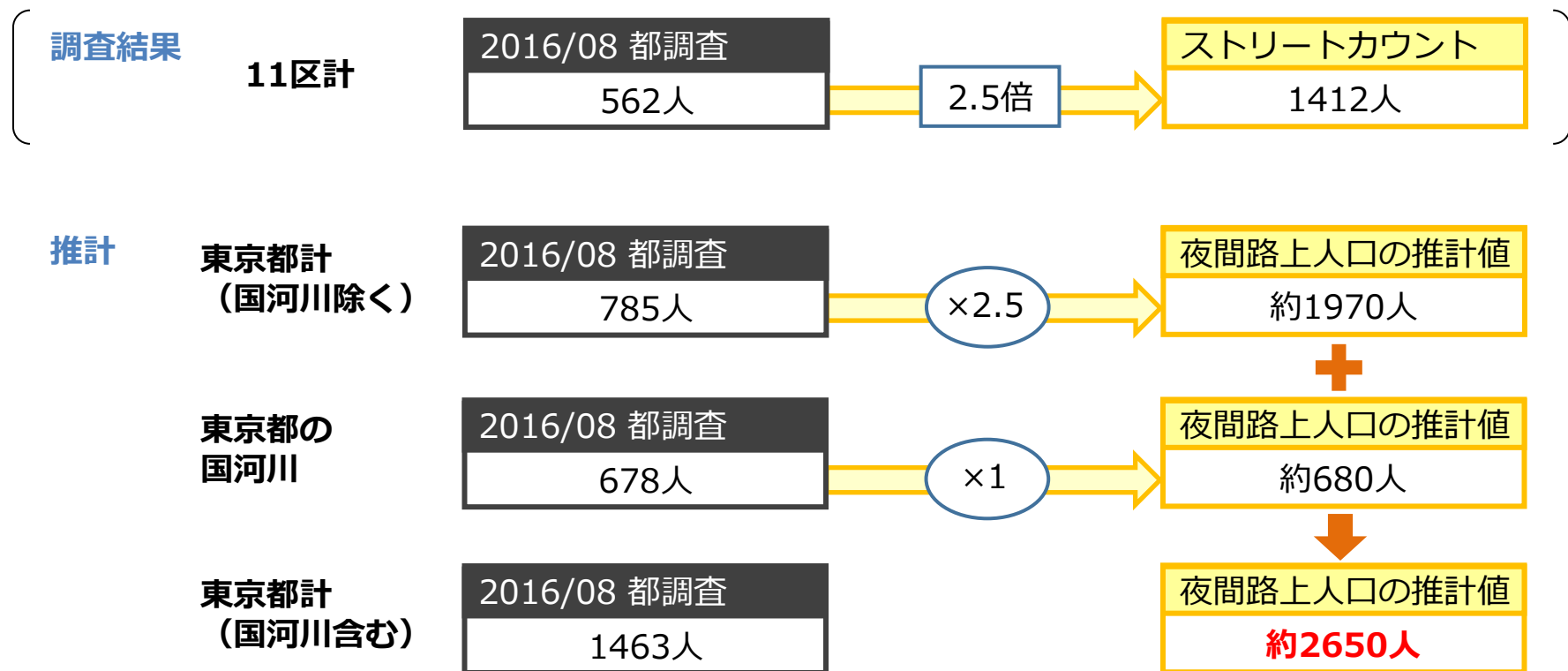
路上生活者の存在は夜間の方が認識されやすいからこそ、住民の目には見えにくい問題になりがちだと思った。（大学生）

23区内のなかでも数や過ごし方に地域差があることがよくわかった。行政としても地域差を考慮した対応を考えるべきだと感じた。（行政職員）

朝早くから活動している人がいて、昼間目にする姿とは違っていった。朝と昼、夜でホームレスの人たちの活動は違っていることが分かった。（一般）

東京ストリートカウントの風景：
ホームレス問題を考える市民の優しいつながりというレガシーが生まれた！

東京ストリートカウントによる路上ホームレスの推計（一晚）



東京都調査(昼間)とストリートカウント(夜間)の比、2.5倍を基に東京都全体のホームレス数を推計
⇒約**2650人**と推計された

計算方法：

- ・国河川を除いた都の昼間調査の値を2.5倍
 - ・国河川は小屋やテントが多いことから昼夜の差があまりないと考えられるため、1倍
- ⇒これらを足し合わせ、約2650人という推計値を算出

海外の各都市との比較

大ロンドン庁資料内での都市間比較

	都市	路上ホームレス人口
1	Los Angeles	12977
2	Paris	5000-7000
3	New York City	3357
4	Vancouver	2777
5	Madrid	2041
6	Seattle	1989
7	Chicago	1722
8	Tokyo	1697
9	Washington	679
10	London	543
11	Miami	535
12	Philadelphia	500
13	Boston	193
14	Dublin	168

出典：Greater London Authority, MD1532 Rough Sleeping Programme 2016-20

	都市	路上ホームレス人口
1	Los Angeles	12977
2	Paris	5000-7000
3	New York City	3357
4	Vancouver	2777
5	Tokyo (ストリートカウントを基に推計)	約2650
6	Madrid	2041
7	Seattle	1989
8	Chicago	1722
9	Washington	679
10	London	543
11	Miami	535
12	Philadelphia	500
13	Boston	193
14	Dublin	168



夜間調査に基づく推計値を当てはめると、海外の都市と比べたときの東京の位置づけが変わってくる

2017東京で路上ホームレス状態を経験する人の推計

● 東京の年間路上ホームレス人口の推計

※ロンドンでは世界で唯一、路上ホームレスの個人別データベースを整備し年間の路上ホームレス人口を把握している

一晩の路上ホームレス人口
(推計値)

約2,650人



ロンドンの路上ホームレス人口統計
より算出される年間/一晩の比率(※)

平均10.8倍



一年間に路上ホームレス状態を
経験する人数(理論上の推計値)

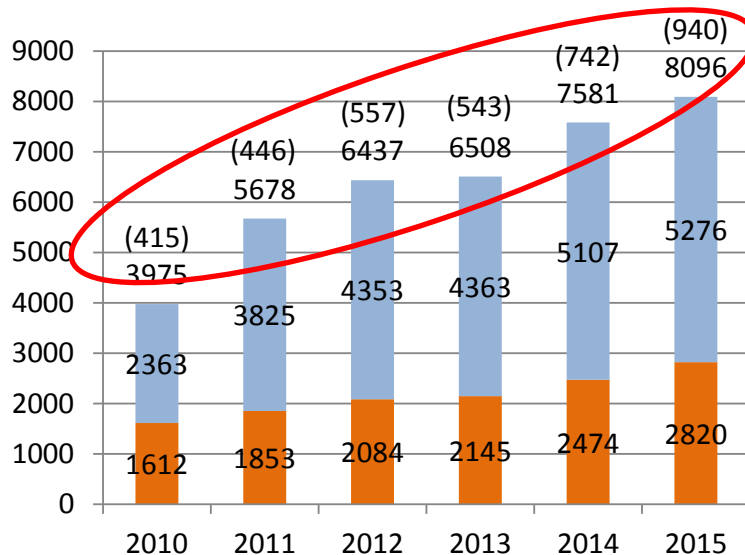
約2.9万人

年間路上ホームレス人口の約65.7%がその年はじめて路上に至った人 (ロンドンの統計より)

⇒仮に東京に当てはめると、**毎年約1.9万人**が新たに路上ホームレス状態を経験していることに

⇒**継続的な対策や持続的な都市の仕組みづくり**が求められる

【参考】ロンドンの年間路上ホームレス統計



年間の路上ホームレス人口と一晩カウントの比
= **10.8倍 (過去6年間の平均)**

年間路上ホームレス人口のうち、その年はじめて路上に至った人の割合
= **65.7% (過去6年間の平均)**

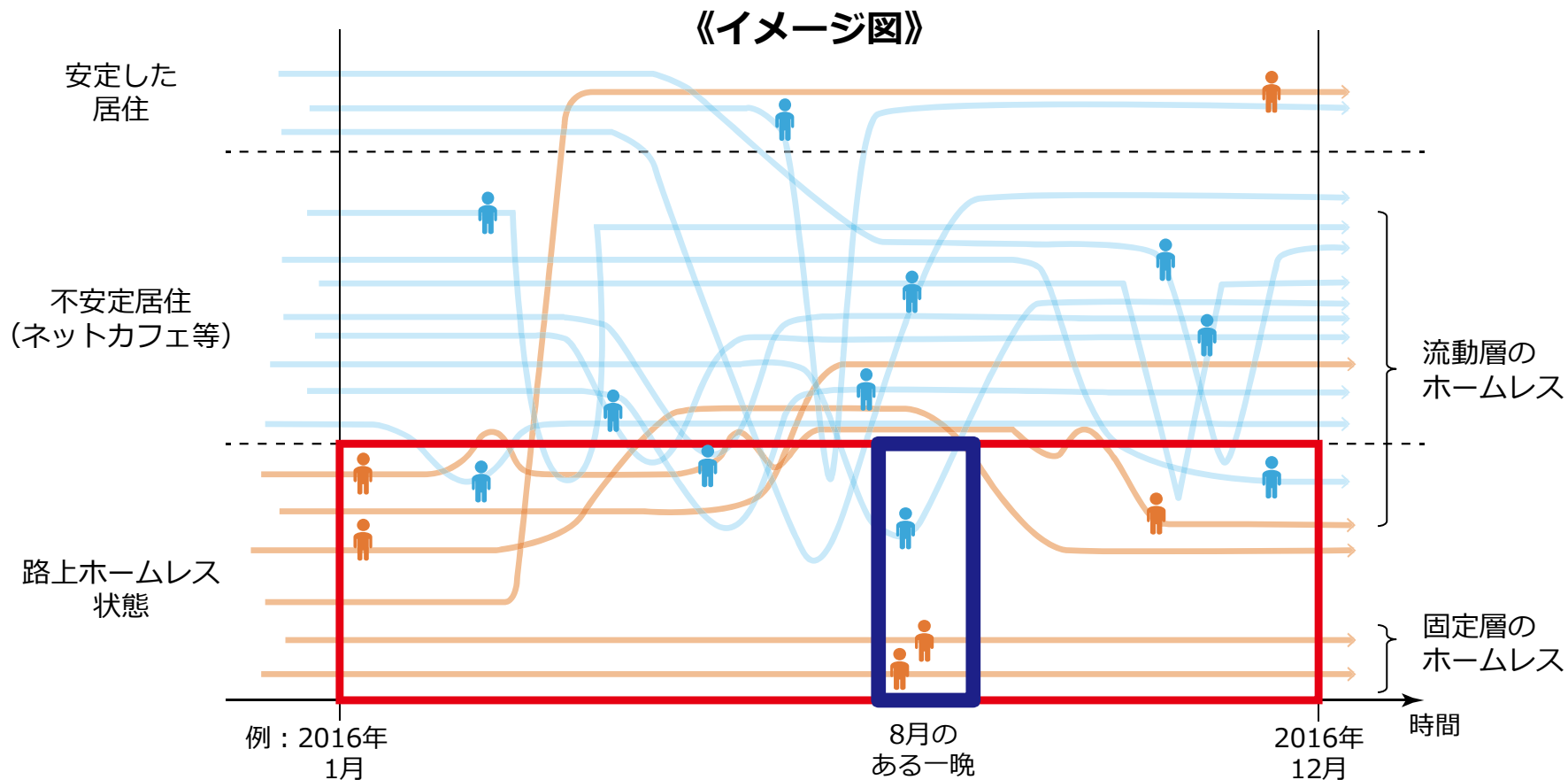
■ その年にはじめて路上で発見された人

■ その年以前に路上生活の記録がある人

(): カウント調査による路上ホームレス数

出典 : Greater London Authority, CHAIN Annual Report (2010-2015年度版) / Department for Communities and Local Government, Rough Sleeping in England (2010-2015年)

常にホームレスになる人がいること



【凡例】



当年にはじめて路上ホームレスを経験



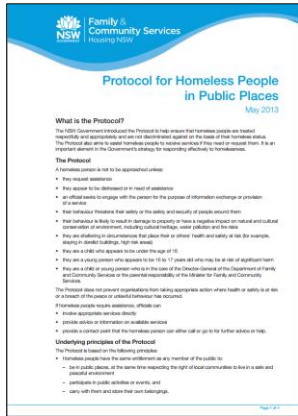
当年以前から路上ホームレス経験あり

ずっと路上生活をされている方だけでなく、一時的かつ新たに路上に出てくる方も年間で見ると多数いるという不安定居住の実態に、継続的に対応できる仕組みが必要

**オリンピック・パラリンピックを契機に、
2020東京をホームレスの人々を包摂する「優しい都市」に！**

シドニーやロンドンではオリパラをチャンスに、問題に本気で取り組んだ！

2000年 シドニー



公共空間にいるホームレスの人々のためのプロトコル

「ホームレスの人々は、他の人々と同じように公共空間にいる権利を持つ」

州住宅局、保健局、警察など12の行政機関が批准

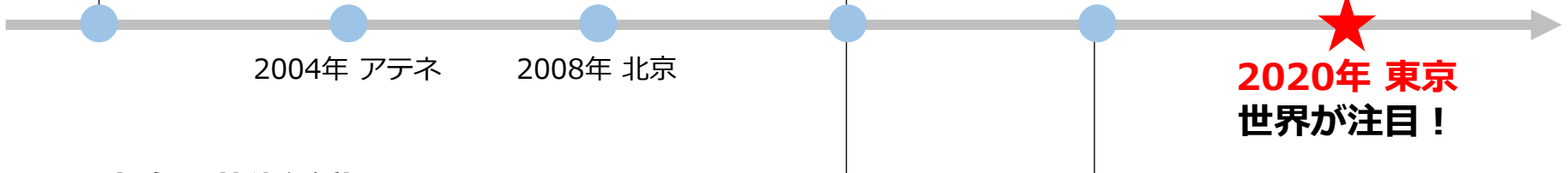
2012年 ロンドン



政策目標：Ending Rough Sleeping by 2012（2012年までに路上ホームレス問題を終わらせる）

当時の新市長Boris Johnsonの主導でロンドン政策実施会議体を設置

新たにホームレスになった人が二晩目に路上にいないようにする
No Second Night Out事業の実施



2020年 東京
世界が注目！

音楽・芸術活動： With One Voice

文化オリンピックの一環としてホームレスの人々による合唱団がパフォーマンス

英国の団体Streetwise Operaがロンドン五輪の際に始め、国際的活動へ



2012年 ロンドン



2016年 リオデジャネイロ

提言①

本気で問題に取り組む**東京の姿勢の宣言**

ホームレスの人々を都市の中心から追いやりながら支援施設を提供するのではなく、彼らは公共空間に共にいる市民であると勇気をもって東京が宣言し、包摂に向けて本気でこの問題に取り組む姿勢を示す

提言②

ハウジングファースト×地域とつながる仕事

「まず家を、次に支援を」提供するハウジングファーストの仕組みを浸透させ、本人が住宅で落ち着いたら地域の人たちと交流のあるまちの中の仕事をする

提言①②を実現するための市民の力

ホームレス問題を考える**市民のネットワーク**

ストリートカウントを通じて、ホームレス問題を考える市民のネットワークがもう生まれ始めている

⇒市民参加で提言①②を実現していくプロセスそのものをレガシーにしていく

シドニー五輪の立候補ファイル、公式報告書において**社会的持続性を一つの目的に位置付け**

“誰も強制的に動かされることはない。私たちは、自分たちの路上ホームレス問題に取り組まずして、素晴らしい花火と五輪を備えた世界的都市になることはできない。” シドニー市長, 2000年1月



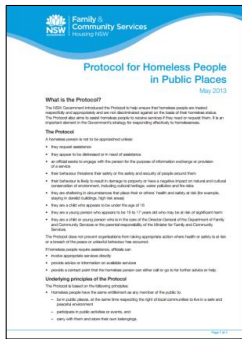
公共空間にいるホームレスの人のためのプロトコル

“ホームレスの人々は、社会のどのメンバーとも等しく、公共空間において、一般に開かれたイベントへ参加する権利を持つ”

“ホームレスの人は、支援目的で交流する場合やその人の振る舞いが自身や周囲の人の安全を脅かされる場合を除き、介入をされるべきでない”

現在も

- 行政職員へのプロトコル周知
 - 異なるプレイヤー間の共通理解と協働の促進
- が見られ、恒久的レガシーとなっている



ホームレスの人々を包摂する社会に向け、**勇気をもって**彼らは公共空間に共にいる市民であるという**宣言（都市宣言・計画理念等）**を！

提言② まず家を, 次に支援を (ハウジングファースト)×地域とつながる仕事

恒久住宅につながる仕組み ハウジングファーストモデルの浸透

ホームレスの人々

- ・簡易アセスメント
- ・家賃補助/扶助

まず家を!



恒久住宅への入居

- ・深いアセスメント

次に支援を!

自宅に住みながら必要に応じた支援
(就労・生活・福祉・医療などのサービス)

(米国におけるハウジングファーストの成果)

本人の安定・住宅定着率の向上

社会的コストの削減

まちの世話をし、地域とつながる ホームレスの人々のしごと

【まちの世話をし、地域とつながる】

- ◎ 公園・緑地の雇用 (グリーンキーパー、コミュニティ・ガーデナー、屋上緑化の世話)
- ◎ 公園・駅の観光雇用 (まち案内人 & Big Issue 販売ブース、公園内飲食サービス業)
- ◎ 公園・まちのその他雇用 (清掃員、資源収集 & リサイクル、修理・修繕サービス)
- ◎ 都市農園の雇用
- ◎ 水辺環境の雇用 (自然環境維持活動、水辺環境教育人、動物保護など)
- ◎ 河川敷のその他雇用 (清掃員等)

【現在の雇用メニューを生かす】

- 警備員、ビル清掃員など
- 福祉雇用 (アウトリーチ、ソーシャルワーク)

【ボランティアをしながら地域とつながる】

- 子供食堂で勉強を教えるボランティア
- 地域交流のサロンなど

東京の各地域でハウジングファースト×地域とつながる仕事を!

～地域で働く元ホームレスの人がまた新たなホームレスの人を支える人材となる、そんな地域づくりへ～

提言①②を実現するための市民の力



245名

これまでストリートカウントに参加した市民

ストリートカウントを通じて、
ホームレス問題を考える**市民のネットワーク**がもう生まれ始めている

レガシー創造中、アイデアの宝庫！

参考文献 (ARCHのリサーチページ<<http://archcd.wixsite.com/arch/research>>に掲載)

- ARCH (2016) *2016東京ストリートカウントプロジェクト報告書〈簡易版〉* <http://archcd.wixsite.com/arch/tokyo-street-count>
- 河西奈緒, 土肥真人 (2016) “2012年五輪・パラ五輪を契機としたロンドンにおけるラフスリーピング政策の展開と実態”, *都市計画論文集*, Vol.51, No.3
- 河西奈緒, 土肥真人 (2011) “ロンドンにおけるラフスリーパー政策と支援システムの実態に関する研究”, *都市計画論文集*, Vol.46, No.3
- 北畠拓也, 河西奈緒, 土肥真人 (2014) “行政機関が締結している公共空間におけるホームレス・プロトコルの研究-オーストラリアNSW州シドニー市を対象として-”, *都市計画論文集*, Vol.49, No.3
- 河西奈緒, 杉田早苗, 土肥真人 (2010) “オーストラリアにおけるホームレス支援の実態に関する研究”, *都市計画論文集*, Vol.45, No.3
- 河西奈緒, 杉田早苗, 土肥真人 (2015) “ホームリダクション理念に基づく米国サンフランシスコ市のホームレス支援-成果主導型政策と貧困地域における包摂的な支援活動のあり方に関する一考察”, *都市計画論文集*, Vol.50, No.1

引用資料

- p.7, 8, 12: 東京都福祉保健局 (2016) *平成28年夏期 路上生活者概数調査の結果* <http://www.metro.tokyo.jp/tosei/hodohappyo/press/2016/10/21/03.html>
- p.13: Greater London Authority, *MD1532 Rough Sleeping Programme 2016-20*
- p.14: Greater London Authority, *CHAIN Annual Report* (2010-2015年度版)
Department for Communities and Local Government, *Rough Sleeping in England* (2010-2015年)
- p.17, 19: NSW Department of Family and Community Services (2014) *Protocol for Homeless People in Public Places*
- p.17: London Delivery Board (2009) *Ending Rough Sleeping*